

プラットフォームの活動に向けて② ～
森林総研の取組紹介

「REDDプラスと森林による防災・減災 (F-DRR) の両立にむけて」

森林総合研究所企画部国際戦略科長

藤間 剛

REDDプラス・海外森林防災研究開発センター



私たちが取り組むべき課題

気候変動の緩和と影響への適応

- 2030年 SDGS
- 2050年 ネットゼロエミッション
- 森林および持続的な森林管理、気候変動の緩和と適応に必要不可欠。
 - 緩和 森林による REDD プラス
 - 適応 森林による防災減災(F-DRR)

途上国で実現するための研究開発に取り組んでいる。

緩和策 REDD プラス

- 2007年12月 UNFCCC COP13

途上国における森林減少や森林劣化からの温室効果ガスの排出を削減し森林を保全する枠組みである REDD プラスが正式に議題として取り上げられた。

- ・先進国と途上国が協力して、森林減少・劣化からの排出削減を図ることになった。

- ・国際社会において、国家に加え企業や団体による活動がなされた。

- ・日本は2国間クレジット制度（JCM）において REDD プラスに取り組んでいる。

REDD研究開発センターによる技術開発

排出削減量の計測手法の開発

- 様々な環境条件下の森林における排出削減量の計測（モニタリング）手法の確立
- 劣化した天然林の群集組成変化とその要因解明
- リモートセンシングによる人工林の分類手法の改良

セーフガード

- 対象地域の実情に即したセーフガード実施手法の開発
- 環境、社会セーフガードにおける重点項目の解明
- 地域住民の属性とセーフガードへの配慮
- 住民便益上重要なエリアの予測手法開発

出版物 公開イベント



森から世界を変える
REDD+



森林劣化とは？

林分の構造や機能に悪影響を及ぼし、それによって生産物やサービスを供給する能力が低下するような森林内部で生じる変化 (Angelsenほか 2012)

実は・・・
森林劣化についての統一した定義は今のところ存在しない。

IPCCの定義 (Penmanほか 2003) :
人為由来の、ある時点Tから長期間 (X年以上) にわたる、少なくともY%の炭素蓄積 (および森林の価値) の喪失で、森林減少として定義されないもの。

森林Forest
+炭素蓄積
-森林劣化

「森から世界を変えるREDD+プラットフォームセミナー」
2020年2月12日

Q3: 民間参画のため、
実施国や企業に対してどんな技術的支援が必要か？
What kind of supports in technical aspects are needed
for REDD-plus countries and for private sectors?

令和元年度 国際セミナー
2020年1月21日

Ms. Mayta
Mr. Morita
Dr. Ehara
Dr. Sato
Dr. Sato
Dr. Sato
Dr. Sato
Dr. Sato

森林による防災・減災(F-DRR)



現在の取り組み

- 日本の森林整備・治山技術を効果的に現地のニーズに合わせて適用するための手法の開発
- リモートセンシング技術を活用したリスクマップ作成
- 海面上昇による高潮被害に対するマングローブ林の沿岸域防災・減災機能の評価
- F-DRRに関する動向調査
- <http://redd.ffpri.affrc.go.jp/>



プラットフォームについて

- 気候変動への対策、森林の持続的管理など、大きな方向が同じ、それぞれのゴールを目指す電車を待つ駅のホーム
- どの列車にのるか、誰と乗るのか、乗るために何を支払うのか
- さまざまなオプションを提示する、もしくは選ぶ、組み合わせ、同じゴールを目指すための場



REDDプラスとF-DRR

- 森林保全の意義が多様化
- 資金源、出資者も多様化
- 森林保全（支援）を進めるストーリーも多様化
- 出資者が求める「意義」を地に足のついた意味ある活動とするための工夫が必要
- これまでの緩和活動（REDD+）に適応(F-DRR)の要素を加える。

合わせ技の意味

- 日本の森林整備・治山技術を途上国で適用するには、現地の状況にきめ細かく対応することが必要
- REDDプラスで蓄積した情報、人々との関係構築の経験が有効
- REDDプラスのコベネフィット
 - 排出削減量に対する支払いのほかに得られる利益
 - 防災減災はあまり注目されてこなかった。
 - 森林の防災減災機能は人々が森林を保全する理由となる
- REDDプラス、F-DRR、それぞれに限界はある
- 両者の組み合わせ、費用対効果の向上、追加的な便益



プラットフォームと森林総研

- プラットフォームは途上国の現場でのニーズに応じた技術を受け渡す場
- 意欲ある加盟団体または個人のマッチングの場
- これまでの経験と知識、新しく開発する技術を組み合わせ、組織と組織、人と人のパートナーシップ構築により、REDDプラスとF-DRRの実現に貢献
- 視聴者から参加者、実施者に



森林総合研究所について

研究紹介

研究のキーワード

[ホーム](#) > [研究紹介](#) > [研究成果](#) > [研究成果 2021年紹介分](#) > 民間のREDDプラスの成果を国の成果の一部として適切に位置づけるための手法を開発

民間のREDDプラスの成果を国の成果の一部として適切に位置づけるための手法を開発

本研究では、民間によるREDDプラスプロジェクトが開始されたカンボジアを対象に、プロジェクトの活動の成果を国の成果と整合性を保った上で評価する手法を開発しました。具体的には、国の森林参照レベル注）を、プロジェクトエリアの森林面積、森林炭素蓄積量、プロジェクトエリア内および周辺のこれまでの森林減少の傾向とその要因といった立地条件の違いを考慮して、プロジェクトに配分する手法です。

この手法は、カンボジアでのREDDプラスの評価システム設計に活用されており、REDDプラスを実施する他の国においても適用可能です。

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/research/saizensen/2021/20210623-02.html>



<https://www.youtube.com/watch?v=CF8q2M-nAfE>

令和2年度森林技術国際展開支援事業

森林総研Youtubeウェブセミナー
「日本における自然災害と防災対策研究の取組み」

日本における土砂災害 実態、調査、及び対策

岡本隆、村上亘、古市剛久（森林総合研究所 森林防災研究領域）







#自然災害 #土砂災害 #台風

ウェブセミナー【日本における自然災害と防災対策研究の取組み】日本における土砂災害－実態、調査、及び対策



ホーム

センターについて

国際的動向

技術開発

イベント

刊行物

FAQ

データベース

ENGLISH 

セミナー
21日



プレイロン地方(カンボジア、2016.12)

 刊行物のご案内

 新着情報

 クイックリンクス

◆REDD-plus COOKBOOK

2021-07-13 **NEW** 『森林総研REDDプラス・海外森林防災研究開発
センター』が2021年度NDCを掲載します！

REDDプラスの背景と
経緯



<http://redd.ffpri.affrc.go.jp/index.html>